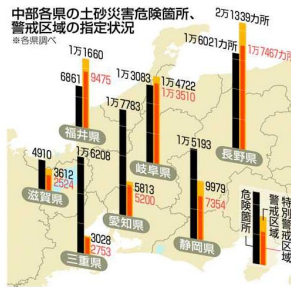


# 危険箇所自ら把握を

## 中部各県 警戒区域 指定ばらつき

台風や大雨で土石流や地滑り、崖崩れの恐れがある。土石流危険箇所は、国土交通省のまとめで全国に五十万カ所。中部七県だけでも約九万カ所に上る。各県でも危険箇所を「土石流警戒区域」に指定する作業を進めているが、進捗状況は県によって大きな差がある。専門家は「警戒区域に指定されなくても、自分自身の地形を調べておくといい」と呼びかける。（今村本穂）



## 自治体ごとに異なる基準

避難勧告は各市町の異なる判断となっており、連携は、首長が防災担当職員と協議して決まる。自治体によってその基準は異なる。多くの自治体は昨年十月の伊豆大嵐（東京都大島町）の土石流災害は、町が発出した避難勧告を出さなかった。内閣府は今年四月、「土石流災害を恐れず早期の避難を」を求め、新指針を決定。県などが発表する土石流警戒区域の範囲を、大雨で地滑りや土石流の恐れがある、土砂災害危険箇所、土砂災害警戒区域に指定している。八月下旬の豪雨で約百八十カ所で崖崩れが起きた高山市では、民家の損壊が報告された。報告と記録の時間大規模な大雨情報を、村単位で出る。市域が広いと、局地的な豪雨を直接に遭った岐阜県高山市は、土砂災害警戒区域を指定し、最終的に九百四十二世帯に避難を勧告し、人的被害を防いだ。

土石流災害から身を守るため、日頃からできる備えは、土砂災害危険箇所や警戒区域の調査です。国土交通省のまとめで、全国の土石流危険箇所は約五十万カ所ある。中部七県だけでも約九万カ所に上る。各県でも危険箇所を「土石流警戒区域」に指定する作業を進めているが、進捗状況は県によって大きな差がある。専門家は「警戒区域に指定されなくても、自分自身の地形を調べておくといい」と呼びかける。（今村本穂）

## 危険な夜間避難 二次被害懸念も

八月下旬の豪雨で約百八十カ所で崖崩れが起きた高山市では、民家の損壊が報告された。報告と記録の時間大規模な大雨情報を、村単位で出る。市域が広いと、局地的な豪雨を直接に遭った岐阜県高山市は、土砂災害警戒区域を指定し、最終的に九百四十二世帯に避難を勧告し、人的被害を防いだ。

## 備え 3.11から

土石流災害から身を守るため、日頃からできる備えは、土砂災害危険箇所や警戒区域の調査です。国土交通省のまとめで、全国の土石流危険箇所は約五十万カ所ある。中部七県だけでも約九万カ所に上る。各県でも危険箇所を「土石流警戒区域」に指定する作業を進めているが、進捗状況は県によって大きな差がある。専門家は「警戒区域に指定されなくても、自分自身の地形を調べておくといい」と呼びかける。（今村本穂）

## 身を守るため どんな備え？

名古屋大減災連携研究センター 曾根好徳 副センター長に聞く

- 土石流: 長雨や集中豪雨によって、山崖や山腹の砂や土が一気に崩れ落ち、土石流が発生する。
- 地滑り: 地下水の影響で斜面が滑り落ちる。
- 崖崩れ: 集中豪雨などで不安定になった斜面が崩れ落ちる。
- 山崩れ: 山腹の砂や土が崩れ落ちる。
- 土砂災害・警戒区域: 土石流の恐れのある流域。

前兆現象

- 山崩り、立ち木が倒れる音、石がぶつかり合う音
- 急な川の水の増え、土砂が交ざる
- 震った土のぬめり、雨の音がうるさくなる
- 雨が降ると川の水位が下がる
- 地面にひび割れ
- 土砂が落ちてくる音
- 山腹に土砂が落ちてくる音
- 山腹に土砂が落ちてくる音

## 枯れ木の多い沢 要注意 ■ 時間なれば「垂直避難」

「山崩りが怖い」という状況は、直接土石流災害が発生する恐れがある。避難の時間はない。その場合、基本は建物の二階か三階へ上ると「垂直避難」です。さらに、土砂が入ってきやすい山崩り谷間の部屋に逃げる。谷間でも柱が多く強度の高い部屋を選ぶことが重要です。また、大切なものは、土砂災害危険箇所や警戒区域の調査です。国土交通省のまとめで、全国の土石流危険箇所は約五十万カ所ある。中部七県だけでも約九万カ所に上る。各県でも危険箇所を「土石流警戒区域」に指定する作業を進めているが、進捗状況は県によって大きな差がある。専門家は「警戒区域に指定されなくても、自分自身の地形を調べておくといい」と呼びかける。（今村本穂）